

スクールカウンセラー便り 12月号



映画「リトル・ダンサー」ご存じでしょうか。思春期の入り口で、新しい自分に目覚め、背景にある文化や規範への疑問を感じ、葛藤の末、日常の美しさに気づく物語です。映画は23年前に初上映され、そのフィルムがデジタルマスター版となってこの秋、全国で上映されていました。

この映画の舞台は、イギリス北東部炭鉱の町ダラム、主人公は11歳の少年ビリーです。家族は軽度認知症の祖母、炭鉱労働者の父と兄、母は亡くなっています。サッチャー政権下、ダラムでは大規模なストライキが続いて、一家も炭鉱ストライキの渦中にいます。父と兄は、労働組合員として腕力と怒りを前面に押し出し闘争しています。そしてビリーも「男らしく強く育つ」ことを期待されて、ボクシングを習わされていますが、ビリーは殴り合いが苦手な上、上達しないまま続けています。ある時、ボクシング教室は、バレエ教室と体育館をシェアすることになりました。そこでビリーは、バレエに魅了され、先生に才能を認められ、自分の中のダンサーに目覚めていきます。ビリーは、亡くなった母の手紙をバレエの先生に見せます。ぐっと胸に迫る手紙ですが、ビリーは「ママは普通の人だった」と言います。冷蔵庫を開けて牛乳をラッパ飲みして母に注意される、というありふれた日常場面をビリーは思い出します。彼は、母も、母のいる日常も、喪失していたのでした。家族や炭鉱の町の不文律を破って、バレエの世界へ向かう自分を発見したビリー。「ビリーはどんな子どもなのか」と周りの大人が彼に真剣に向き合った時、家族はそれぞれの信条を曲げ、ビリーは改めて“一家の子ども”として再発見されます。「英語?!」と耳を疑うイントネーションも物語の大きな構成要素でした。「子ども時代」から旅立つ思春期の物語でもありました。

どうぞ良いお年をお迎えてください。来年もよろしく願いいたします。 細野 SC

- ① 通常通り、学園事務局 **072-759-3000** または保健室まで、「スクールカウンセラーに相談をしたい」旨、お伝えください。事務局への申し込み受付は、**平日の17時まで**です。
- ② 開室時間は、**水曜日、11:00-18:00**です。ご希望の時間帯をおっしゃってください。また、「対面」「電話」「ZOOM」のうち、ご希望の相談の種類を、お伝えください。

【対面による相談】50分まで

相談室の場所は道しるべ3階にあります。予約時に、ご確認ください。感染予防の観点からご家庭での検温、マスクの着用、入室前、退室後の手洗いをお願い致します。

【電話での相談】30分まで

予約時刻になりましたら、事務局へお電話ください。相談室へ転送されます。

【Zoomでの相談】40分まで 40分になりますと自動的にZOOMの接続が切れます。

事務局からお伝えしますアドレスに、メールをください。

メールには、お名前、学年、クラス、申込み時に職員よりお伝えしました相談予約日時を書いてください。

当日までにZoomの招待メールを送ります。予約時刻になりましたら、Zoomにお入りください。